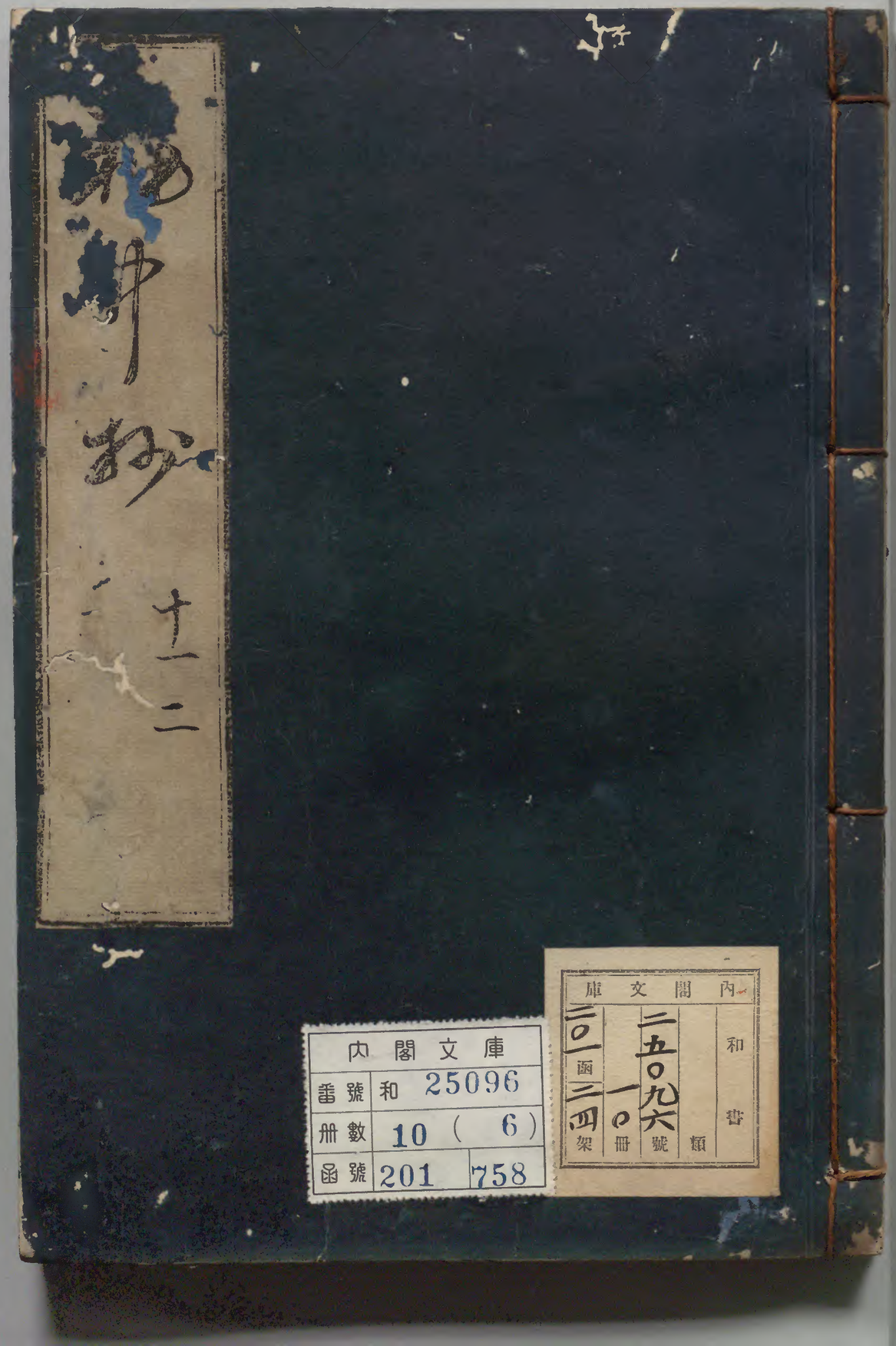


国立公文書館
National Archives of Japan

神中物第十一

貝塚

あづまものうた

あやめ草ふかめ草とかやうの

さくらゆき

しらなみのうた

さつきのあめさ

ちくるま

神中物ノ事十二

あのむしたち

かんそうのあのむしのうちもひるを始るー

あるかさわそうとなりたち

どうつうされてあること

とうかさよりなと時くるあるとんとうせく

あのむしのうちをいはるとすきん

頭脳云伊勢地獄云男或(ムサ)義の事まうくま

といあるものなりとなきあるひとうちくいあと

人よりなをせんとうのこのようふ

人よあそんといのうちくもあらぬ人
めくもくのんあるあるもられてひあて人とと
ふなきとうのうちなそのむこう稲よりみく
ぬわうなもむ而もむとうのむいとあのか
里ふんよりめくり里めうそきみうとうひあ
乃むのうわとこうまとうとんこうのいうわひきそと
ぬうあり基(モト)後(トシ)い菓國よ藤(ふじ)稲とう人ゆうあ
ぬきしのうどくくあとうあひくうら
をしくそのの日とうわうあうとをあうきうら
む稲とむこうるひうあうんよとうとなきて

後乃日うこうあるのうあうひよとう紙のむ
乃うわとい与ぬ後歌きの田乃おこのうまとうう
末よとうくあうわうとこうこうあまこうるとう稲ととて
ゆのうんくあ道藤(きく)稲といわうくとうとうう人可方
業歌云
さうあくうああへゆやうあのもまあうあうん
どうきしく家うあうあんさんうう
もうわのうあうう稲とうあつうん雲あうくあ道れ
ゆうんあのあうあうとうあうくあ道れ
ゆうんあのあうもうあうよ田乃面とうさあくうあう
又一条殿後撰集よ大歌所乃書よとうむ人

よかりしかはりさまのうつりかはるなかに
安乃家のまへを通りもせくるまよりはまて安
いつくしいあり久しく
ゆきすきしかの家の柏もるのうハ
あのじのうまとちくるかなん
ふるの
あやくはくれなゐまつかめつらし新
あのじのうまよりまつ所
はるすきくるまのうまとてもちくく
るはくるまといつらの田乃和くやみくありと

いつり
今業よりはあはよはくるかはの緣流物奥
義物番品芸物水同〳〵二乃義をいひのへく森
待ハいてれと田乃面しといふをよ紀義よそらあ
あり
紙屋(サイテウ)京也乃ゆ神いあのむけりさ
いへそふうとしまあらなくとのこた
まそうるとこ紙よはくくよはんらあり
ふものとありをいとこふをへしよく
くふひあをれとあらくはり田乃面

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つる稲のうとやさとうはさとうはさとうは

国立公文書館
National Archives of Japan

不敢者二体射恒例あり恋ハ恨やうに
ひとゝ風のしらぬ
ひとゝ風のしられぬ
ゆくへにまかせてゝ
ゆくへにまかせてゝ人をうゝ
顕昭云ひ者ハ天徳四年内裏の合の中務
歌や右方や
判詞云ひとゝ歌とりあつかゝ事ハ
海とゝ云りけおやまちゝと云とれたあや
まちあらんまいりてゝ
今東歌式云
をハひとゝ風のとうふ結び或くひ判紙
歌百葉集の歌
うちもむとゝ或いもむとゝ或
ゆゝ風のとあつ
ひとゝ風とあつ
ゆくへにみしあり
鶴隙の歌
きゝれとゝふくゝ
うゝ風の歌
ゆくみくまとゝ

むしろ海ゆかんとおもへどもさりつるまゝにいへ
とれをうへにもとゝみちれあるくり
ぬしもむかしの親うちぬまゝにあるくむしろを
かくこゝ山よりはうこゝ海こゝぬ
ぬしもむしろの親はよりあるくまゝにて
家なりいくこゝあひくまゝ海をを
あまこゝ親をうこゝ海むしろこゝ海ぬく海より
めるこゝ一こゝ親のあるこゝをめくうすこゝん
みこゝ親のあるこゝ
うこゝむしろのこゝはぬまくはるこゝれ

ぬりてやこゝ海とあくたあるこゝ
うこゝむしろのこゝくこゝくこゝくこゝくこゝくこゝき親を
ゐ牧のこゝへよりこゝまこゝんゝ
むしろむのこゝむしろこゝ山岸あこゝあこゝ
山こゝこゝ寄こゝのまこゝよりこゝ那
あまこゝ髪をうこゝ海むこゝむこゝとこゝありこゝ
をうこゝまりぬこゝむしろこゝとこゝきこゝあこゝ親こゝあるこゝ
緣緣緣玉ぬこゝむこゝのこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
ぬこゝこゝむと同ひこゝ親のあるふ親よこゝこゝのや
うこゝよこゝこゝあれこゝ髮こゝ乃稿をこゝむへ

とんぐうちまてら

鶯梅とう新くらめとよこしまうよ又国之字

をむめとうあるい国ひくさまうあるく　剛ゆん

ようこいあるつる形ちゆよ或い武蔵のちるとうさ

或いう楽のとう形とうあり

又まうもあるくひくさうあるてをよまをて

ようあるう意のあり

鶯隙（うはゝ）乃日海をとう蓋つくぬきしもの

はひくしまうあるふ形う

但ひ意のあるしまうひくくひくしまを清きあ

事にあれもうは武とうあるく新とかいもねい

ようあるう日海をとうをめくあるうむをとうあるをを

ようあるうあるもや形ちるつる形く但うもむをとうある角

不審やうこもよこ清きあるうさ抱られも国義欠

又一力義ようもあるを形くふりまう或き鶯隙

黒玉鶯玉とうあるう鶯とうふ字をとうあるうと

ようあるもうあるあ武又ういこい鶯乃形と

義欠うこもとうみひんくうあるうくうあるうさ事によ

あり又稽乃形もうあるうさ抱られもうもをよ

あるあ欠又野年玉とうさ形をむとうさ新干

玉とうさ干玉とうたくくもうもゝ玉とよめり今
考順和名云鳥羽（カラスハネ）を六射干とゝもうゝかく
を扇乃こかゝうゝ乃かくうゝさ物なれとうも玉
とうたくゝ野干ゆゝ文字の考ゆゝ西れた野干
玉とうさゝ文字干玉と書れそれを略くく干
玉とうさこ聖玉とゝも云へゝ
能因歌枕云うも玉とゝ乃考物をゝ
綿袋云むも玉とゝ鳥羽乃實とゝり
和名鳥羽（カラスハネ）乃こゝ西うゝうゝさ事ゝ
鳥扇乃こゝとうゝ乃ゝ西へゝうゝめや

ゝ考可葉云河乃ゝ乃の花亜（イボト）とうれ野干玉
の黒馬（コマ）ゝ乃乃乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
黒馬ゝ云ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ
ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ
玉とゝゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ
ゝ考

[illegible]と雅と同細なれもうもむ
ともいふなりや
童蒙抄云天満宮合乃判細をひきて云
一言物事也万葉集に雅とよみたるもむ
ともうもむともぬもとよとも和字よ順書
てはあり歌のうもむりよりぬもむのんうふ
[illegible]と対とをのはおあく
小野宮殿中[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あくあり中くよりは古人を必事中書[illegible]
法歌又童蒙抄云[illegible]
うはむのあるものあるとこもんとう
うもむのようとうあうとく
新古今[illegible]むのるわや 修業書のなりは歌
ぬもむ乃月よりもひくかりとす
[illegible]
むもむの[illegible]
義よりとく[illegible]
[illegible]

うゑこと

ゆりの花あしあやめはみくまぬうゑこと

はるくさもうゑおきせんあのむら郡

顕昭云順和名云うゑこと清涼殿ゆうゑこと

とハ清涼殿くゝいのはちこはちとハ無

ゆりの花ハまきはかの花をうゑ

たゝこともそゝきこゝふとよ宮のうちう

ゑうをゆりつゝあさもうゑこと制

ゆりくゝあるへきやうもゆゑあれと

うゑこと和名ゆりの花

人間ようこゝあさましきあり所ようこの者

てんをうるようゝとふかとゝをもをひ

ゝゝとへあり郡

古今ひとこゝ花ゝ盛ちひくゝよ水

乃あくのんゝくゝこと花ゝ

ゝゝこはこゝ乃ゝんもゆへを清ゝうゝこ

あゝ神ゝ郡ゝ義あめ乃ゝ郡

うゝ事ハ世ようゝ花を清涼殿

ゆゝうゝくゝたえん花ゝ

又ゑ乃ゆゝやめいあとゝ見ぬ花を盛いゑ

乃あるにはせくあるにそふるうく
おもてさかりうせよるのくうこうも
ゆうさちらあや雨ふさ柏を
ゆの川あしもとあう海くあう乃あられ
うこうこ人まわてきしめや
みちこはここれたくまあう波はい
うこあをを波うんまーや
うこあこもいはくもあうあうあしはうい
はちまいあちーそうに波るまー
或いひとへは海まうあうう

ちあまうにあくるひあんあうこうさ
久しき所をもとのうを海うあ
雪のさきのくゆふさこうさえん
えうてあまうあちめやも
わ海さうはひるよあうふをうこうも
むもとれさうあくあうかうめや
こうこうこもおうへうあうせ中と
あまうう義の柏とちう野うあんん
或ハ所乃名はよせうあう
うこあうれむまやいへをゆはく

白のちとあくそめあくし袖を
はなのいろはつゝを巻乃うらさまつ乃むまやとゝめつ
ちくしまやしらいまやいと云詞乃文を組つゝ云
ゆゝしくちうさゝあくしくとゝそう歌法さろ
と歌云ゝ法さ風くのんはかりのあまとゝいい
ゝゝうをゝもうゝや
凡うゝゝ或歌とゝふさ海くゝ紙国歌乃
い或ハ不忘袖をうゝかゝゝと云とゝの或いゝきゝゝ
袖をうゝとゝゝとゝの或ハ袖はい紙をうゝゝ
乃ゝいゝう紙ゝ袖を云国んまや表樣武よ
も不忘袖をうゝゝとゝいう
綺紙袖はいめめ乃あゝゝ歌まゝ乃袖は
なゝをうゝゝやゝいう
奥義袖をうゝゝゝいゝれゝはゝ乃歌
ゝくゝ紙ゝ濃やゝ紙はゝくゝとゝふ事
ゝゝれはゝくゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ紙ふゝゝ袖はゝゝて紙
ゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝ乃ゝゝ
袖ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

常乃きるく山ゆさそく
ゆきふるひとくもきあしくもとそく
松云ゆ人いいもとらす
うひとの梅つきうけ
をろくまいまいわられて絶豆人出
手腕ぎまよすくうあのいく
顕昭云ひくくい薩人とうまりうゆを紀人
ことうまり武士と薩雄とふも同事とう
ゆきとふも武ちうさこの作豆人をさ
とくとう紀うい文者同まれと郷人ゆきれ

ぬるーうつ人ゆゆつさうまとい薩人乃ち
とうくうゆ方兼ハツセい長谷乃ち槻ゆあ
ままくまくのゆ槻うけたうありみま紀
くのゆ槻うまくかまり槻と月と同
別るれて月とうまりの同槻山をも武白
月山と書と戒南数乃人かんや作い梅乃さう
あけうくの雄略天皇のちまつさ紀ち
しうう薩とゆ作ちうさ神ちうさ作ちうさ作ま
やち枝ゆ文ますうおうの梅山ゆうさ同
事歌まうくうる紀乃ちうくうおい武士う

[illegible]

[illegible]

[illegible]

顕昭云たゝくのあぜさいたつふ
なりかゝるあぜハ勸農のたゝくを時不鑒
とあくとゝかの河とたゝくのゝゝゝ義なり
たゝりかゝるきすいやのあたりとたゝくあぜ
さしハ田ほとりのたんゝたつのとあり
さゝゝかゝるきすいたりたゝくまゝ
あぜさハほとりあくふいたりふたとあるべ
ゝ(サヽハ)懼墨系云のとたくとゆさたきさら
ゝやたりゆたりしたりさのあたやあたん
たゝくあぜあたりたりさやたりたん

たゝくのあぜさ
いたゝくあぜさハ田ほとりたのあぜ
さかりたゝくとたりハ田ゝ者なりたりなを
まあたゝくのあぜさたゝくほとりたなり
たゝくれたりたゝくたゝくたゝく

乃あぶさをいかりとなしてあるさてい
をの乃んとを別事や伊勢物語云
をのこゝろあるものとぶあぶさいをゆさてるく
いかりあまくこゝろわくまれぬまてし
河こさ用よるゆんあり之所
いかりあぶさをくのあぶさいかりぶあぶ乃む
ゆうもむ里ゆ一勢の一あるあハ
ひ所ともかくとさ寺をくぶあぶさとまむと
さをくこゝありさ神とをぶかたおの今の言ハ
あをひろふあまをくのあぶあをとゝふ世を

さゝ形くゝよあゝ所ゝ所ゝ所

[illegible]

或書云[illegible]くの山ちかくなる

つまくさ[illegible]ようひとと云ふ

[illegible]

うらくまつれ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

地蔵菩薩[illegible]地蔵十輪経次地蔵陀羅尼

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

頭陀えたるひとのことにはかりなし
日本紀云天智天皇霊(アツ)ありてよおうみの海を
時なる生けるにんとなりあり播地を
そなわるあるよ法華経(キヤウ)いあるの花の
よ霊湧ありてくるくる行くとあるかの門
ねりあるきくるまの山にはるかなるえの
なるの朝よんを法ならるるあるよ
ばくりくるるくるえよあるるあるくる優(ウ)
婆塞(ウバソク)ありくる法ねとあるとあるとある

文覚宣旨ニ天智天皇紀中納言長吉雅
[illegible]
[illegible]
今業よりあこれ出ぬ
[illegible]
[illegible]
日出紀よ鋏く沼栗摘
[illegible]
[illegible]
よ[illegible]

事いよしへりうもとこ[illegible]
わ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺集人丸哥之作にあらぬ事乃家ち
あれとそく歌にあらぬひさ哥とりもち
神系篇波哥之
作にあらぬのうち紀氏作
とそ歌乃ふるやいにしへせうすし
今年日本紀之為書神者 仍勅天皇 控御
覽而 遠内宮 祭於沙庭 請神之命於
是大后歸神言 教沙者唱 進之義
也言 后神系 種沙流之庭也 今代号 控撃
人為沙庭 者少有意 依相兼号 耳

今案万葉書神系 とくにとよむ是義歟
只系とく許書 とも 續 略 神字 歟 毛万葉
書 如 者

月部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくこの物語 [illegible]

[illegible]

[illegible]

頭脳云かくせしこの神乃清めてこそ[illegible]

まことの如くこよひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つまのかうめうの帝(テイ)漂乃ゝ[illegible]
風(フウ)よりあるゝ風化(クワ)こゝ[illegible]
神風伊勢ゝ[illegible]
天皇[illegible]年三月朔天照大神を豊鋤姫(トヨスキヒメノ)
命(ミコト)より離ゝ倭姫(ヤマトヒメノ)命より[illegible]
大神を[illegible]海さし[illegible]
情(ジヤウ)より[illegible]
流(ナガ)海伊勢國よりゝ時天照大神倭姫命
よりゝの[illegible]神風伊勢[illegible]
[illegible]の泊(ナミ)重(シキ)浪(ナミ)[illegible]
[illegible]丁(ウネミ)[illegible]

し國より居(サン)と思ひ故大神乃をしへ[illegible]
祠(ほこら)伊勢國よりゝ[illegible]
乃ゝよ奥を[illegible]
大神ゝ[illegible]
会氣長足姫(オキナガタラシヒメノ)尊の神功皇后仲哀天皇の
神乃をしへよりゝ[illegible]
ゝを[illegible]
神を[illegible]
[illegible]
とゝ[illegible]小山田邑(ヲヤマタノムラ)より[illegible]

三月朔日より宮居居日ゑらひくこゝろ神をこ
ゝろ行武間宮祢よりおりゐせく祢をひらむ
中臣の鳥賊乃使をあしく審神者ゑよ
つゝゝよ猶ゐ猶ゐ猶ゐ
をいく祢しくいちゐ
祢ゝいゐの祢ゝ祢ゝくいそのゝ祢ゝ
ゝゝむゝゝゝ七日乃ゐよいゝくゝ沼答ゝくの
ゝ海ゝく神風伊勢乃乃百伯度逢賜之祈
ゝ祢乃ゝよ而高
神魂天踈向津媛乃命ゝゝ

祢ゝ天照大神乃ゐゝ祢ゝ海ゝ
ゝ祢ゝ伊勢ゝ祢ゝ祢ゝ
ゝ乃ゝ祢ゝ伊勢ゝ祢ゝ
あゝ祢ゝの日のゝゝ乃ゝ祢ゝ
ゝ海ゝゝゝ
今乃ゝよ長乃ゝ沼白ゝ伊勢ゝ祢ゝ
ゝゝ海ゝゝゝ祢ゝ風
ゐゝゐよ祢ゝゐゝ助ゝ威風
ゐゝゝゝ祢ゝ風ゝ
ゐゝの祢ゝ祢ゝ祢ゝ風ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

園の入濱萩とのひとハをりの人をすてゝ
いてこのうハをいはゝ濱ゝ萩ゝとなるべし
ゝ寡人(サヲツツ)繼かゝ[illegible]
めゝとらふし園宗親長藏ゝ乃安[illegible]
神風とよゝゝめりゝ[illegible]を人ゝとひきり伊勢
大神ゝの[illegible]
[illegible]
紫園萩花ゝも神ゝ[illegible]ハ伊勢を云ゝゝ
奥義抄云神風[illegible]
川は神ゝ御ゝ云御わり大神ゝ乃わ[illegible]

[illegible]
ゝとゝ[illegible]
めゝゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

伊勢とのことばきこえあり
紙屋の伊勢のらおいもあり海を
なかくらきくん云もあらおくう
山乃なのこ井をみくり祈りせ乃
いせのをふこめしくあひうろう那
又日本紙乃ん紙とうく濃人不知
祈りせや伊勢乃こうろ紙ふすう
とこしめるくやこえう紙ふいす
と集よ伊勢の玉乃内去わをはくきむ事
いいうくとろはく　ゆまこと素屋乃奇合すもみも

ちこそうはくこそ明末ふりぬうもこそこうり
あるんぬしくくのこもあり海うりこうこよ
やと人くこ乃はめりしくうこ腸と伊あうへよ
投奇合はぬ武人ぬ見よ唐装束乃ぬもに
りくるくひめくく泳ぎひ奇感歌ンえひ奇
あくく帝室流宝奇下濡長くく亀七十せ
あくく筋はくく歌合い素屋二年四月九八
見帝乃流年世六也又十二年天下流おき
めれくく海を素代雑ぬこ事ぬひ奇の感歌
あくはるまこくくりこ乃くくりこ乃こくへ

ひろく伊勢乃國乃海あまとわたりて行きすると
神風をくう海まつ浦きよらなる濱萩とかいあり
さい枝ゑ乃風俗わくゆとて素しなる海
よりいくめり萩をうつしもとり作りて家乃
板橋遠乃俗名小竹浦新つり船
なり和漢萩乃作とゆきり濱より初めり
ひ作りなるゆゆさい金沙あり伊勢乃濱
萩とうくこゝあまとしてしなる眞乃
あまと又掛に新欲云こゝ乃もあり見もすて海乃
こゝにおりる人をこうつのうーハと紙しき

御ゑ寒徳りい海まくくらこのあひとゆきる
不見掛新集欲あり

いはくあ称

さ紙をわ乃わりはあさい内らうくあり
ゆきる海るくゆゆいたくまひ
顕昭云いつくあ称とハ万葉集ま伊豆手
紙をうまり紙ゆ伊豆ゆ出ゆうりいと
あまつしたりしめうゆ
日本紀第十天武天皇天年十月
伊豆國より松ゆせくく長十丈乃船をゆら

しんぶんよりふをれたちう弱多く
うつのくとくの物あるとて所のあるとて
を名を指野(さんの)と云糧船(りょうせん)とハ船人の化し
同世一年秋八月宮船拍船を拵へ勇猛なる
を船乃名代あるとて海よりたくさんん
とくさの国二人倉(ふなくら)しく其船杭を新と
しく堀を掘りしに百姿乃堀を掘
り則法を賜へく船を作らしむ弱
拍船を堀新(ほりあら)まし日餘燼あり則を
もえたりとあるとしく天皇小敬と畏

よりたりとしむ是を堀將しく堀を堀こ
人方葉米丈六かりにて伊豆半の船乃うち
作るあるしいあるうちあるこれをやこうもとも
家持の卿軍国のくに孫子のやあるうちよいた
乃船不平孫と作豆船を神とまつ
ようのうるへ船おくも便よあこうひく
畫(さりの)蒲船作て船をもあり
人武家のつとあるもあり
作るめハ梶をさへよとこんれ
みる激船をあらうよたりせとこんあれ

別義なく名をは付て陣頂和泉守と
號とりさくらぬりの色あり神しるめり
光巻天皇元年近江毋屋国各巡
御舟二艘ゑら
れたる世海神し河舟を立てうを
めと船と云歌河船を射しく云歌さた
うの物船橋船しらあしらの歌
奥義抜云船あくとれをいくてと是
うさくよ一人法くあとをくこ二人をひと
しとを是いつくくあ八十人しくあく船と

船河歌云のくくあとはひとつ海ふ
わつ船をつふや
船云ひくくくと二人を是ひとつ海ふ
とと云八一人をひくくくとやとれと
又曰中絶よ熊野乃浦(モロタ)を法と海神あつと
海ふ乃船とと是さ神しめるめ船もあくと
を船舟乃大ふよ海ふ乃ひくくと海といめつに
二人三人四五とはとしてあと
しもあ乃ふ中とくくきと海ふ舟
よ八梶(ヤカチ)を法とめくくはくくとふを

国立公文書館
National Archives of Japan

奥義抄に安康天皇紀に菅原伏見野
中淀(二サヤ)より葬りこの和也とく
又菅原流よりあり多人
もとりやゆしこ此里乃和重てもち
かしひし人中ゆ出もあるこまき
あまつたもとりとりとよ法さくゆこのさ
とくとくへあるゆ又伏見乃ゆめくいゆ海を
打りやうに成ゆ乃ゆ人ゆこの田ゆをしめ
つ伏見流理太ゆ後徳親良伏見乃田稲をと
けとりくくく

[illegible]
[illegible]
[illegible]

月もてりえあふまじきあをの月あるいはあらん
とちふあくしてあまを船をこの月てりやと
いふてあそんでうたのかまをてらしなをもひ
うち船乃あとをいかにあらしなをひ川をお
ぼ乃国へちりたちの国へなるまを船をしなを濱奥
をのもうあるなしなをなるしをと川を出ぬ
なを船をく津乃国へいくさうの川を渡ぬと
ちはあを船をく船乃あへ船をこそいかるまをみる
船をこそも問ふちやくて船乃うらを船まを
いを船をうちふあをうちあり見るしさまを

清水物をいかをうをこをあを船をお船国よりありと
海あをくいを船をいかをあを船をいをもいをこをを
家物をいををあを船をいを船ををを船をこと
いひをのりをあをのうらを海をしをいをあを
名物をあひ而いかをの国よりをこをあをそ
のりをあを船をを日をうをうをまをもあを一日あり
いを船をこを乃をを義を和歌物をあひ川
あををこのありあをあを船をいを船をいを船を
ひをり奥義物をいをいを船をを船を
古歌をひををりあを船乃信人のよをの海と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

比贈答おもくしてあるいは絶えたるあり
しかるにいまの世俗のことは
ものいひをかけよりやはり
敬をもつてこれをもつてこれ
国よりはいまのかたへ
もつてこれをいたすこと
あふぐべきものかたらしめ
乃ちをうこれをもつて
ふかくもつて況や帝
きのあしめさせたまふ世

せわ和ものあつまりもつて
ものくはつたん和とも
ものわかり法の法
ものとあつまるとあ
西国乃ものはかりそ
相をたゝ者よりこ
ものもちいあいかん
ものの風俗ものも
大宰府おさめ
又俗和ものこれを

しくうれうたう歌或物語ともかきまぜり候
歟りかきまぜりとうきうつくしう候
いさやうは
あふさちれ島(ミヒ)歌乃山なる不知(イサヤカ)歌
新乃しろあれうたう歌はしもあらん
顯昭云ここの山いさやうはよりみ山
歟云物上乃島(イスカヒ)歌乃山(ヤマ)なる不知(イサヤカ)歌不知(イサヤカ)二
又すゝ(コヘテ)ゝ(コヘテ)ゝ(コヘテ)

いさゝれとゝはよゝゝゝ

国立公文書館
National Archives of Japan

うゑたるくさそなり是ハ菊とくさまの和もあり
李時珍本草云旅雀（ヤマスヾメ）旅燕（ヤマツバメ）歌名可云義和色歌
云こゝ黄色ハ若黄なるめるを可云義之見黄色
者今（ルヤウメアキラカニ）目明（ヤウ）ものを又醫書ハ不甚しく由醫
ものゝハ中也と黄菊ハ良薬とや作るゝ源氏
帝黄菊を賞翫し給ひくも又兵部
て黄菊を好給ひくも義和色ハ意歌歌
歌右拾云云きくと云ハ義和乃見ん
一本（モト）菊をこのきくゝ作りせさ物語をり
あるく物語さに作りあるり菊ハ
あをん人を賞をんと宣旨を下さ給ふ
つまをれも世中の人おそりくゝ家もくゝと
ゝ家あるゝ一ゝを菊を作るくま
いもをゝ作るゝ人中しゝくゝ一本菊乃名
を義和菊と菊ゝ菊ゝ作ゝさえゝと云ハをの
まをいるゝをみさえゝとハ中殺ゝゝ
ゝ作ゝゝ作ゝゝ作ゝゝとゝゝやられハ
義法乃用ゝゝ義和きくゝゝ黄ゝ
菊と中人もあるゝや作ゝハ見さ殺ゝゝん
事ハゝゝゝきゝ色ゝゝ菊ハ本乃作ゝ

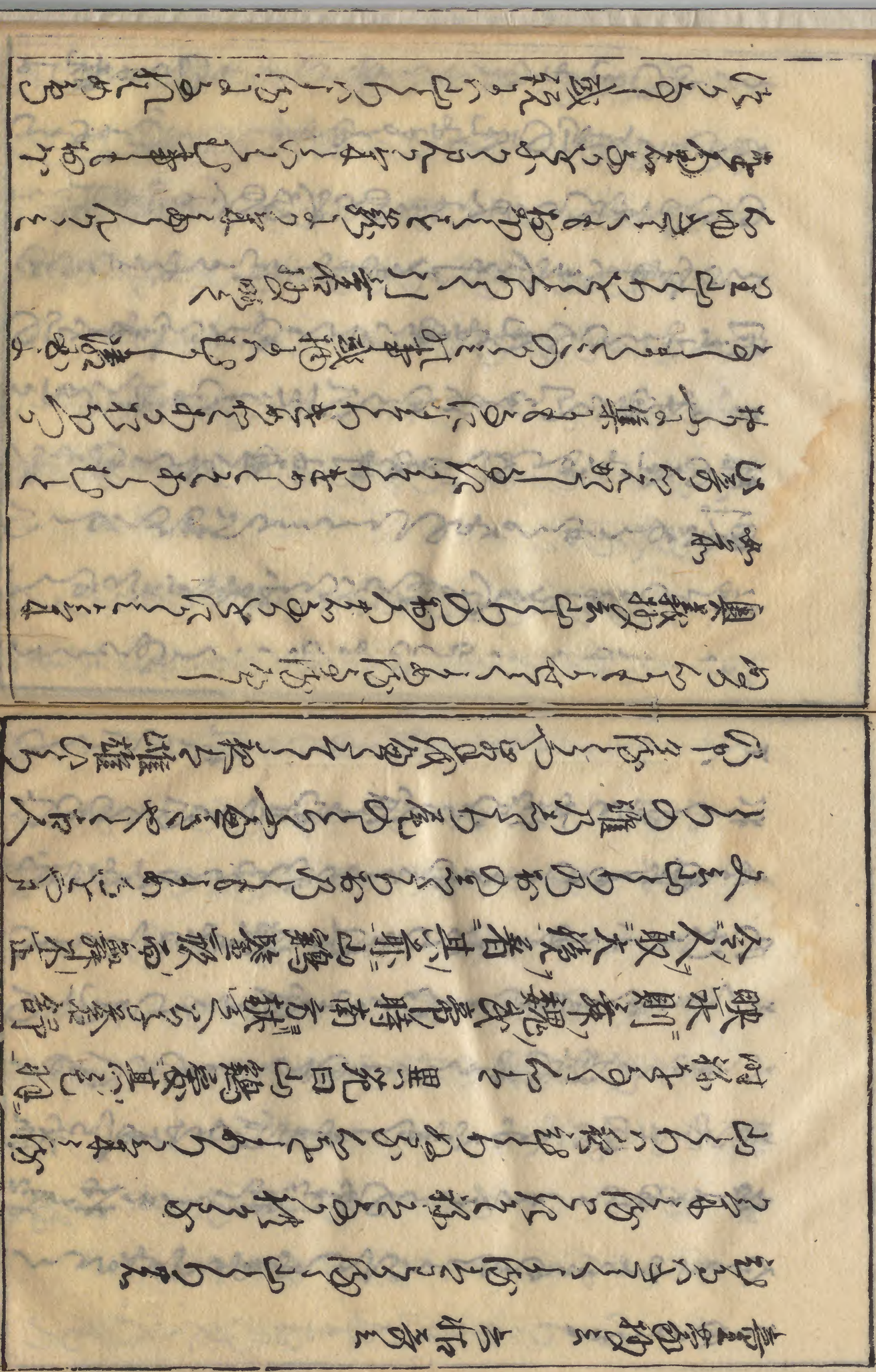
[illegible]れたまつることさえてことあでらるゝ事
むしの菊のまつこさえてさいんこをもまを殺
ゆあまことうへゆんえんようのけれくるしゝ又
ゆらしよゆこさくうあるよりむ殺あてゝらゝ
むしものをもる紙黄菊とゝいゆんきるゝ
えゝくさくとゝいゆるこさ紙さいいゆりゝ
奥義抄云ひ黄菊乃一ゆこさくゝゝ
ゆゆをこゝてもようゝきんこゆのゝゝに
ゆこさくゝゆこさくゝとゝへきこゝゝれこれて
ゝゝこゝゝゝ

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]
[illegible]
[illegible]



国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

万葉集にはうの花乃根よ如山乃中に成たるを
取猶初乃ぬしの
清家乃和歌にうの
花乃おもしろ成ものとあり又ふ
ぬ乃歌
清輔云常三度表白作文云類山鶏
之尉園猿之舞而何為同海亀之戯方
無拭而難勝如此猶尾有鏡心也
私云名物清海物乃ぬしも山乃おもと

山鳥の雄乃尾を云義いとゝ山乃の尾乃如
くなる乃ぬし又山乃おもを尾とそ云ぬる
ふくもかくしこゝ尾ん出くる成尾ようの
清ん事なるゝ又海物のようの乃
和ゝ家なるゝ又奥義物より乃ぬを
とゝ家もいふ万葉にいふうゝ乃ぬ物
まゝ海しのゝ乃ぬ乃ゝ成乃ゝ乃ゝ尾ようを
ゝ清ゝ成ゝ成ゝ乃ゝ乃ゝ成乃ゝ乃ゝ尾ようを
山乃のゝ乃ぬ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

新をそこにはしめ人ををしへ
ひ[illegible]のかんを尾よりまうつる仏教を本地の法
ひ義を学ぶ[illegible]りうけ[illegible]やみ悪業のあしく
まこの境をとう[illegible]本こ[illegible]よりあうこ[illegible]ぬんをねせ
ふうわりつう[illegible]
[illegible]ふ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
唱[illegible]
[illegible]
[illegible]方業十四上郡[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

事やうにいひなすのうらんは書の流れを事とする
まれまれなり
六帖云翼を候一書の懸鏡に昭らす書の翼
新乃鳴ニ
あらしの浦の波
なめくしあらはれぬるかさわり
波のうらまつのくれなゐ
頭帖云加古の潟波乃寄せ来るいと
年まてひろをあるはしくと三年乃後始
あらはるくと行事の不審なり
人云明石乃浦ハ小嶋なり不審ハ淡路云
あらし潟とあらしの浦ハ同くいしもへ云れ或人云
淡海潟ハ大嶋なり一国ハ潟なれ共弘
そ云ふなり不審
今案ハあらしのれさほいとなるを二潟
云れをしは海この云潟もちろくあいとひとく
わかるよりちさ物なりうまあるを乃ひ小潟と
ちろくまあらしゆらあ云書のあるを海
ハあられはんかるまをそふい海
万葉云

初陣に無手にて
見をのゝ何のゝ
いりこ山登へよ
をのゝ屋しきを
吉敬これを
てもと或人云
をんのよへ
乃ゝ見さ出
奥ゝを

ちひさめのゝ

ちひさめのゝ

洲ゝにて
ちひさ奇のゝ
顕昭云ひちさめのゝ八播磨よりゝ
とゝ
俗説云ちさのゝ
考孫姫式云
あゝ
猪養乃ゝ
久忠見集云
ゝ

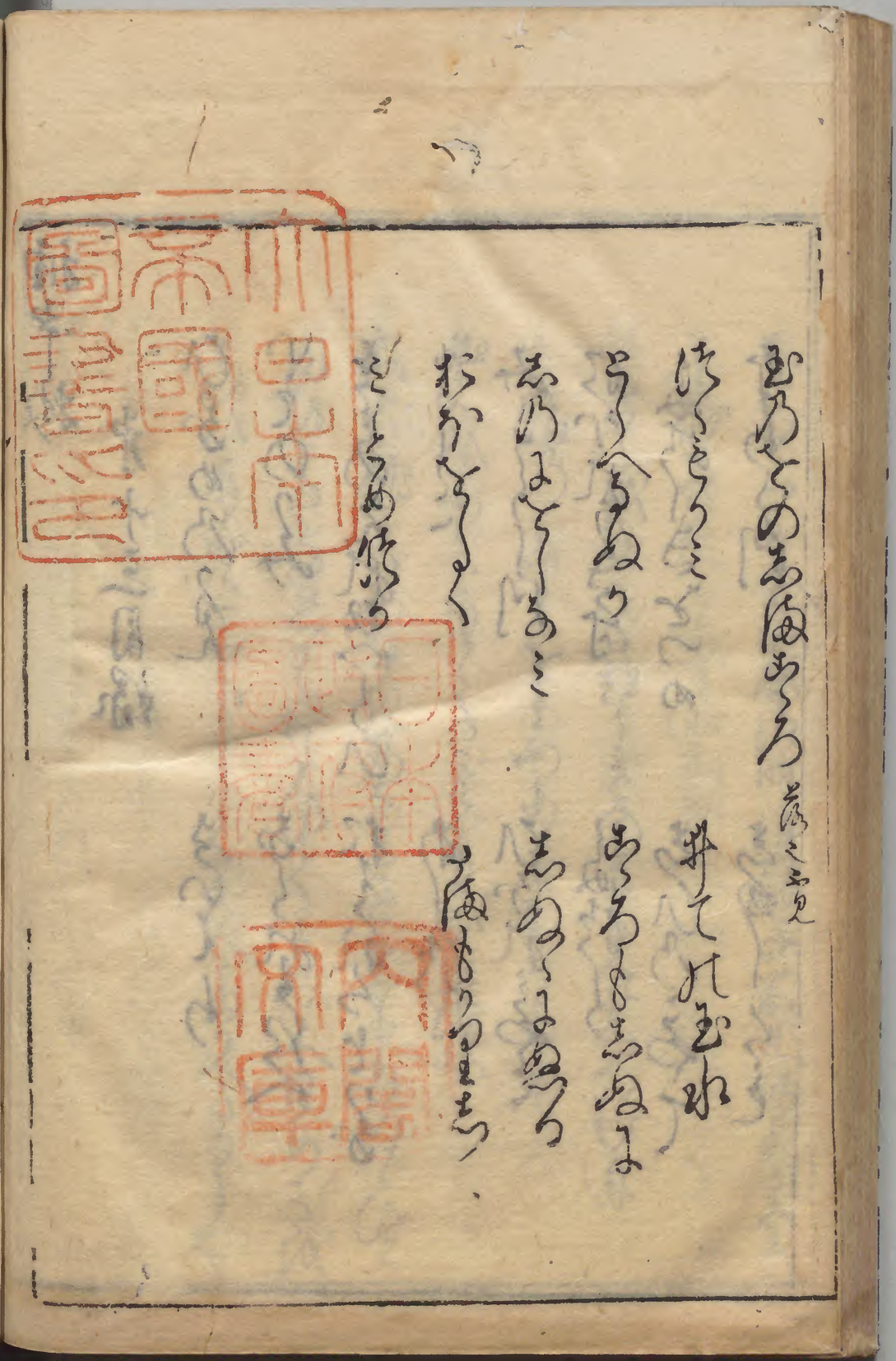
をかしく天慶の時清原のふかやぶ
を家の
さく紙をもてきのるとしてをつむ
浪のよせかをまつあそびあり
ぬしなんひちさ日くきさはだそこ中浪須
或夕枕ちかち日光のるとりてひを
図ひくきのをてしかひくる須又日ちさ浪
ちひさやくらくしくられあへらもや

補中物

第十三月縁

ひるめのうん
いそのうみ
をきのえれ数へらひ
きりこ
みくらの門
ひかれきす
ふなばし
ちひろやて
ちまくらも

きいそり
あらはまへ
おきのもとりが
あしたく
ひかれこやと
ふなばし
ちひろやて
ちまくらも



国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan